



ご案内資料

そこゆく自称トレーダーのあなた

ひょっとしてまだ

スプレッドが狭いから . . .

とかいう理由で FX 業者を選択しているのですか？

もう、いい加減になさいよ。

そんな、**前近代的な残念な基準**で **FX 業者の選択**するのは。

. . . 突然に大変失礼しました。

私もトレーダーのハシクレ。あなたの気持ちもわからないでもありません。

百歩譲って、スプレッドで FX 業者を選択することも **ヨシ**としましょう。

でもね、**もしあなたが「お遊び」で FX に取り組んでいる訳でないのであれば、
「FX 業者の実態」、そしてそもそもの「FX の実態」を知っておくのは実に重
要なこと**です。

念のためにお聞きしておきます。

「あなたはFXで稼ごうと思っているのですよね？」

この質問に、あなたは「Yes」と声高らかに答えてくれるのであれば、私は本日、あなたに**非常に大事なこと**をお話しします。

稼げる「手法」とか「ノウハウ」とか、巷にワンサカ溢れる「わかりやすい教材」を血眼になって探すよりも、**もっともっと大事なこと**です。

「その大事なことはどんな話なのか?」、そして「なぜそれが大事な話なのか?」を、これからじっくりご案内します。(ついでに興味があれば私の正体も。)

心の準備はよろしいでしょうか?

なお、ここから先は、多少なりとも FX の経験が無くては理解できない内容ですので、FX の経験がある方のみお読みください。FX の初心者さんは、本屋さんに行って適当な入門書を買って読むところから始めましょう。

さて。

まずは、前述した**スプレッドで FX 業者を選択することの「不毛さ」**を、ここいらで**いっちょブチカマシ**ておきます。

まずもって言えることは、FX 業者からの提示スプレッドがいくら狭くても、**その価格で約定しなければ、まったく意味が無い**ということ。

例えば、とある FX 業者が口座開設を誘致するページで**「うちの USDJPY のスプレッドは 0.3Pips でっせ!!」**などとスプレッド自慢を煽りまくっていたとしましょう。

煽っていただくのは事業活動としてご立派なことなのですが、

「で、実際のリアルトレードで「0.3Pips」のスプレッドで、しっかりと約定されるのか？アンタ」

っちゅう話です。

ここを理解できているトレーダーがあまりに少ない。

また、この**煽り祭り**・・・つまり**スプレッド競争**を盛り上げるために、**外野から首を突っ込む面々**も存在する訳です。

Google の検索窓に「FX スプレッド」などを入れて検索してみてください。

スプレッドの低さを比較したアフィリエイトサイトが洪水のように表示され、アマタある FX 業者を比較し倒しています。

こんな風に祭りが盛り上がってしまうと、世間様的には「**スプレッドが狭い FX 業者が『是』、そうでない業者は『非』**」と断罪されるようなものですから、そりゃあ当事者の FX 業者は血眼になって裸祭りに参加してスプレッドを下げる（フリをする）訳です。

そんでもって、低スプレッドに目がくらんだトレーダーが口座開設をしてくれて、実際にリアルトレードしてくれたら**シメタもの**。

企業倫理やらコンプラやらはとりあえず棚上げして、**トレーダーに言い訳が通る範囲でズリズリと約定を滑らせればいい**訳ですから。

巷のトレーダーってのは不思議なモンで、FX 業者を選択する時はエラく目を血走らせるくせに、実際に利用し始めちゃったら少々のことには目をつぶってくれるものです。

資金を移動するのって面倒ですし。

こうして、大手の FX 業者は業界トップクラスの「**極狭スプレッド**」とか、「**口座数業界 NO.1**」とか、「**アンタ、そんな勲章、必要？**」とツッコミを入れたいくなるような**勲章**とやらを手に入れるため、裸の王様よろしく不毛な競争を続ける訳です。

スプレッドで FX 業者を選択することの「不毛さ」をご理解いただけただけでしょうか。

相場で**正当に利益をあげたいマジメなトレーダー**にとって、極小スプレッドで煽るだけ煽ってまともに約定もしてくれないショウムナイ FX 業者を相手にするヒマがあれば、**スプレッドが 0.1Pips でも 0.2Pips でも広がったとしても、そのスプレッドで「正直に」ズバツと成立してくれる FX 業者の方が、はるかにヨロシイ**訳です。

裸ん坊の王様たちは、こんなこともわからないのでしょうかね。

とは言え念のために申しておく、ここまでのお話しは、あくまでも私の経験上、こういう FX 業者もありうるかも知れないと想像しているだけの話で、現実には存在しないことを**切に切に切に願うばかり**です。はい。

そんな訳で、スプレッドひとつ取ってもこの有様です。(私の想像ですが。)

とは言っても、我々個人トレーダーがFXに取り組むに当たっては、**FX 業者の傘**の下でトレードをするしかありません。

だからこそ、「FX 業者の実態」を知っておくことが重要なのです。

そして、FX 業者とうまく付き合うために、**FX 業者を正しく見極める目**を持ち、**FX 業者の弱点を徹底的に把握**し、極限まで**「有利」なトレード環境を手に入れる**必要がある訳です。

数行だけ余談です。

信用ならんFX 業者でトレードをするのが嫌ならば、**自分でFX 業者を作って**そこでトレードをすれば良いのですが、今から**国内でFX 業者を一から作るのは、残念ながらほぼ不可能**だと思って良いと思います。

FX 業者となるために必要な「第一種金融商品取引業者」の登録を取得するのは、(最低億単位の)**資金力**と、(経験豊富な)**人材力**、(集客をするための)**営業力**、(競争の激しいFX 業界で生き残る

ための) **商品開発力**、そして何より (監督官庁との長期間にわたる) **粘り強い交渉力**が必要です。

だからこそ、そこそこの資金があって知恵の働く面々は、既に第一種金融商品取引業者を持っている会社を**買収**するか、あるいは、**海外**の金融系の法律が緩い国で FX 業者を作るかする訳です。

スプレッドつながりでもう少しだけ話を続けます。

これまでお話ししてきたスプレッド競争とは少し矛盾をするような話になりますが、混乱しないようについてきてください。

あなたは「**一般社団法人 金融先物取引業協会**」をご存知でしょうか？

ここは、金融先物取引業を行う金融商品取引業者及び登録金融機関の唯一の自主規制団体で、**監督官庁** (つまりは金融庁ですナ) **の指示の下**、スプレッド競争などの広告規制を含んだ様々な規制を模索しています。

で、この略して「金先協会」が、監督官庁の意向を受けて、本来は**店頭取引の良さである各 FX 業者の特徴を無くすべく規格化しつつある**訳です。

「各 FX 業者の特徴を無くす推進をする業界団体」 って・・・

それってつまり、トレーダーや投資家の方向ではなく、ライセンスを取り上げられたら超恐ろしい

お上の方向ばかり向いている**ペコペコ業界団体**ってこと？

・・・はい、悲しいかなその通りです。

この金先協会ってのはつまり、業界を守るために業界に属する企業の牙を抜くという、「**なんや**

の？その意味不明な団体は？」と小学生の息子も首をかしげてため息をついてしまうよう

な自主規制団体なのですが、この団体がスプレッドについての広告規制を進め、掲載するスプレッ

ドでの配信レートは全体の何%以上で無ければダメとか、いろいろな決め事を作ってらっしゃる訳

です。

個々のFX業者が他のFX業者を出し抜くために**スプレッド競争を繰り広げる**一方で、お上

の意向を受け、業界団体が向かう方向としては、**スプレッド競争を終焉に向かわせよう**

とする**複雑怪奇**な実態。

何とも理解しにくい構図になっています。

ただ、普通に考えれば、スプレッド競争は**FX業者自体の収益の足かせ**となりますので、

いずれにせよスプレッド競争は終焉の時が来ると考えるのが自然です。

では、我々トレーダーはどう対処すればよいのか。

そうです。

スプレッド競争が終わりを迎えた後でも利益が取れるよう、**銀行やプロ同士での間で提示されるようなスプレッド**でも稼げるようなトレードスタンスを身に付けておけばいい訳です。

先ほどの USDJPY であれば **「2.0Pips」**、もしくはそれより広くても稼げるようなトレードスタンス。

つまり、従来通りの「1.0Pips」以下の狭いスプレッドで「1.0Pips」程度の利益を狙うようなトレードスタンスでは、仮にスプレッドが **「2.0Pips」** に広がっただけで利益を得ることが困難になってしまう訳です。

そんな**トレード「体力」**を付けつつ、スプレッド競争が終焉を迎えるギリギリの瞬間まで「**極狭スプレッド**」にこだわる FX 業者を**利用すればいいだけ**のことです。(約定に気をつけながら。)

なるほど我々は、「FX 業者の実態」や「FX の実態」を知ることで、このような「適切な判断」を下せるようになる訳です。

ここまで長々と語ってきましたが、スプレッドだけを取っても、これほどまでに国、業界、FX 業者、アフィリエイト、そしてトレーダーを巻き込んだ「常識」と「非常識」が存在する訳です。

だからこそ、我々はFXで勝つためには、ともかくも「FX 業者の実態」と、そしてそもそもの「FX の実態」を知っておくことが肝要なのです。

「ところでアンタ、何モンだ？」

・・・これは失礼。

「招金猫」と言います。

鋭い方はお気づきも知れませんが、残念ながら本名ではありません。

ここで少し私の**キャリア**をふり返りますのでご興味があればお付き合いください。

大学卒業後、一般の人よりは遅れ気味に就職活動を開始して、最初に就職したのが某金融商品取引業者でした。

その調査部門でのアナリスト業務がキャリアのスタートです。

その後、1990年代前半よりディーリング部門に異動して、資金運用を開始。

そこは、**儲かるのであればどんなトレードをしても構わない**という非常に自由かつ実験的な部門で、FX などが無いころの為替市場でのフォワード取引、現物株式、日経平均先物、CB（現在の新株予約権付社債）、国内の商品先物、米国の商品先物とそのオプションなどなんでもござれという感じでした。

本来はディーラー（トレード）、ミドル（リスクマネージメント）、バック（集計）は独立していません。

あまり好ましくないのですが、少人数ということもあり、**集計システムの作成とバック（主に女子社員）のマネージメント、個々のディーラーのポジションチェックとそれを部署全体のトータライズ、そして自分のトレードという無茶苦茶な業務**をしていました。

ここではバック業務を行うためには商品の仕組みを知らなければならず、必然的に多岐に亘る金融商品の知識を習得し、さらにミドルのためにマネーマネージメントや総合的なリスク管理を身に付けることができました。

メインとなるとトレードは、現在ほどトレードに便利なツール（たとえば MT4 など）がありませんでした。

しかしこれが反対に自分で Excel を使ってテクニカル指標の計算式を作成することを強いられ、テクニカル指標の理解やプログラム売買の礎となったのは確かです。

その後、都合により退職。

20 世紀末に外為法が改正されたことで、別の金融商品登録業者が FX 事業を立ち上げるということで、お声が掛かり、まるっきりゼロから作業にあたりました。

当時は、今のようにカバー先（カウンターパーティー）は国内には無いというか、銀行・証券会社は相手にもしてくれない状態でした。

したがって、海外のブローカーとまずは IB 契約、そしてプリンシパル契約へと形態が変化していき、FX が認知されはじめた頃に、誰でもご存知の超巨大外資系の投資銀行などとも契約を交わし、関わることとなりました。

ただ、ここでは、自己売買などは行わなかったこともあり、**つまらなくなり退職。**

その後、半年ほど一般投資家として FX をやりました。

最初は過去の経験もあり、勝てました。が、マーケットが変わったのか、市場参加者の増加とともに今までのやり方では小遣い程度しか勝てなくなり、どうしようかなあというときに、以前の会社

で一緒だった人から、FX 会社を買うから役員をやってという依頼があり、業務担当の取締役となった訳です。

ここでは、トレード全般に関することすべて、カウンターパーティーとのやり取り、カスタマーサポートの責任者としての顧客管理、システムベンダーとのシステム構築、そして業者としての自己売買やカバーなどなんでもやりました。

そして 2013 年に退職。

それ以降は**それまでの経歴をすべて捨て**、20 年の歳月で培った手法で専門トレーダーに転身したというのが、これまでの私の包み隠しような無い経歴です。

業界歴は 23 年ですから、そこらの **FX 業者のお偉い方よりもヨホド FX 業界の裏側に精通している**と思います。ぽっと出の IT 系 FX 業者なんぞ相手にもなりません。

自己紹介はこんなところにしておきましょう。

でも、**何で私が「FX 業者の実態」やら「FX の実態」を知っておきなさいと訴えているか**と言うと、これはまあ実に単純な話で、**単に「知らない人が多すぎる」**からです。

よくもまあ、その程度の知識で大事な資金をお賭けになりますナ。

という感じです。

いやいや。

ジェットコースター気分を味わうために入場料を払っているのであれば良いのですよ。別に。

そこまで私はお人好しではありません。

どうぞ速やかにジェットコースターにご乗車になって、刹那的なハラハラをお楽しみください。

でも相場に集まる皆さんの話を聞くと、どうも様子が違う。

どうやら「勝ちたい」らしい。

とりわけ、FX歴「半年」とか「1年」とか「2年」とか・・・、そこそこのキャリアがあるトレー

ダーが、「勝ちたい、勝ちたい」と強く願っているらしい。

にも拘わらず、皆さん知らないことが多すぎる。

「ホントに勝ちたいの？アナタ（汗）」

驚きです。その程度の知識でFXの荒波に立ち向かおうとしているのですから。

もし、本当に勝ちたいと思っているのならば、もっと知ってください。

「手法」とか「ノウハウ」うんぬんの前に、もっと大事な知るべきことがあるのですから。

手法ばかりに目がいて、下地となる知識が無いってのは、例えるならば、微分積分を学ぼうと躍起になっているけれど、そもそもたし算ひき算かけ算わり算がわかっていないようなものです。

・・・持ち前の例えベタがこんなところで足を引っ張ると思いませんでしたが、それはさておき、

FX における無知は命取りな訳です。

あなたが運用しようとしているお金は、あなたと家族の命もかかっている**命銭**ですよ？

ここだけの話し、大手のFX業者の中では**FXの初心者が大好物**の会社も多く存在します。

勘の鋭いあなたはもうお気づきだと思います。

そうです。

**FX 業者は「ノミ行為」をしているのですから、トレーダーさんには負けても
らった方が都合が良い訳です。**

「ノミ行為」というのはつまり、トレーダーの勝ち負けを、FX 業者が「呑む」のですから、トレーダーが負ければ負けるほど、FX 業者は大喜びな訳です。

ここでちょっとあなたにお聞きしますが、**負けてくれるトレーダー**、つまりは **FX 業者にとってありがたいトレーダー**って誰のことかおわかりになりますか？

はい、そうです。

FX の初心者ですね。

だから、ノミ行為に熱心な FX 業者は、宣伝の得意な広告会社やらアフィリエイトにお金をたくさんバラまいて、**まずは先行投資として初心者をガバガバ集める**訳です。

仮に集客のために広告費をたくさん払ったとしても、実際に初心者がトレードすればしっかりと負けてくれるのですから、そのタイミングで**ガバガバと回収**すればいいって寸法。

初心者ってのはトレードスタイルが固まっておらず、どの FX 業者を選ぶべきか？という判断基準もないので、「**とりあえずスプレッドが狭い業者が良いだろう。**」ということで、スプレッド競争を繰り広げている FX 業者を選択する訳です。

おわかりですか？

FX 業者にとって、スプレッドが狭いというのは「**つまらんアピールポイント**」であるのと同時に、「**初心者を一網打尽にする**」という実に重要な意義がある訳ですナ。

・・・なんていう毒々しい現場を FX 業者にいる時にいつも見ていたので、**FX 業者を辞めた今なら足かせも無いのでいろいろ喋っちゃおう**という訳です。

ともかくも「**こうした事実を知らない人が多すぎる**」のですから。

我々トレーダーは知る権利があります。

しかし、FX 業者に都合が良くて、我々トレーダーに都合が悪い話は、FX 業者からは開示されません。

だったら、**FX 業者から専門トレーダーへの転職記念**に、トレーダーの立場から、チツクラ肌脱いだろうという話です。

誤解なさないでください。

私は正義の味方となって、彼らの悪事を暴こうとしているではありません。

いちトレーダーが、FX という日本海の如き荒波の中でトレードをする上で、当たり前のように知っていなくてはならないことを、ひとつひとつ明かしていくだけのことです。

海の安全を煌々と願う「灯台」のようなモンです。

さしずめ、石川県珠洲は能登半島の最先端、海から昇る朝日と海に沈む夕陽が同じ場所でみられることで有名な、明治時代にイギリス人の設計で造られた白亜の「禄剛埼灯台」といったところでしょうか。**やかましいですね。失礼。**

そんなこんなで、私が「**FX 業者の実態**」やら「**FX の実態**」やらをとめたのが、

ゼニ失いトレーダー25 箇条

です。

フザけたタイトルですが、**文章の中に注入した闘魂コンテンツ**は、**おフザケを一切排除**しています。

タイトルの通り、トレーダーが当たり前のように知っておくべきことを「25 箇条」にまとめ、それぞれに解説を加えています。

なお、この条項は折に触れ私が更新していますので、**2013 年 11 月 27 日現在では、「32 箇条」となっていますが**、今後もこの条項は厚みを増していくと思ってください。

では、どんな条項があるのか、チクとご紹介します。

- ゼニ失い 1 業者選びの基準を持っていない
- ゼニ失い 2 国内の FX 業者は安全だと思っている
- ゼニ失い 3 お気に入りの業者は 1 つだけに決めている

- ゼニ失い4 業者からの補填など無理だと諦めている
- ゼニ失い5 業者の弱点を知らない
- ゼニ失い6 自動売買はセットすればOKだと思っている
- ゼニ失い7 呑み業者は悪だと思っている
- ゼニ失い8 ロスカットに種類があることを知らない
- ゼニ失い9 FX業者とはどんなものか知らない
- ゼニ失い10 業者のカバー先との契約がどうなっているか知らない
- ゼニ失い11 スプレッドで業者を選んでいる
- ゼニ失い12 レートがどのように提示され、約定するかを知らない
- ゼニ失い13 信託保全の重大な落とし穴に目をつぶっている
- ゼニ失い14 AKBの総選挙とトレードの関係を知らない
- ゼニ失い15 マイナー通貨が好き
- ゼニ失い16 デモトレードは重要だと思っている
- ゼニ失い17 損失が出ると悔しい
- ゼニ失い18 ラーメンとカレー
- ゼニ失い19 長期トレードが好き
- ゼニ失い20 コツコツドカン!のトレードが多い
- ゼニ失い21 難平・マーチンゲールは悪だと思っている
- ゼニ失い22 SWAP狙いはアリだと思っている

- ゼニ失い 2 3 メンタルを鍛えることが重要だと思っている
- ゼニ失い 2 4 良い教材は良い結果をもたらしてくれると思っている
- ゼニ失い 2 5 EA の購入判断は、EA の実績次第だと思っている
- ゼニ失い 2 6 エントリーさえ正しければ、エグジットは簡単だと思う
- ゼニ失い 2 7 自信が無いのにトレードをしている
- ゼニ失い 2 8 資金管理の重要性がいまいちピンと来ていない
- ゼニ失い 2 9 MT4 と時間の関係を理解していない
- ゼニ失い 3 0 MT4 は FX 業者に丸見えである事実を知らない
- ゼニ失い 3 1 口座を解約しても個人情報に残ることを知らない
- ゼニ失い 3 2 警察と税務署の恐ろしさを知らない

手前味噌ですが、条項だけで読みたくなりませんか？

初稿であげたコンテンツも我ながら良い出来だったと思うのですが、某●ヤン氏の要望に応じている内に、エライ質と量になってしまいました。

ご覧になればおわかりになる通り、「FX」や「FX 業者」の実態だけでなく、私なりに分析した、テクニカル指標や手法についての解説も入っています。

大事なことを言い忘れていました。

あなたがこの教材を読んでも稼げません。

これまでにお伝えしたとおり、この教材は、勝つための具体的な手法ではなく、FXで勝つために、もっと前に知っておくべき「大前提」をまとめたものです。

この教材を読んで、

「なんや、稼げないヤンケ!!」

と毒づかれても一切私は責任を取れません。

だって、そういう主旨のものでは無いのですから。

とは言え、ここまでFX業者の実態を明らかにしたのはこれが初めてでしょうから、これから私のところには、上記の内容を明らかにされては困る勢力が、イザワルをしにくるかも知れません。

そうならないことを切に願いながら、毎日を平穏無事に過ごしたいと思っています。

2015年2月追記

「ゼニ失いトレーダー25 箇条」は2015年2月に、一般書籍化されました。

更にグレードアップした内容となり、なおかつ価格が半額以下となっています。

出版にご協力くださった皆様、誠にありがとうございました。

⇒ FXの「ウラ側」を味方につける本



最後に、**鼻血ブー**の特別サービスで、ランダムで「3つ」の条項を、そのまま載せておきます。

「ゼニ失いトレーダー25 箇条」の中身の参考になさってください。

・・・と言いますか、「ゼニ失いトレーダー25 箇条」を買わなくても、このくらいの内容は知っておいてください。

ゼニ失い4 業者からの補填など無理だと諦めている

トレード結果に関して、おかしいことがあっても諦めていませんか？

ある意味クレーマーとも受け取られかねませんが、システム障害やおかしいなということは、即問い合わせし、相応の対応を求めるべきです。

トレードの結果を確認する取引報告書（名称はいろいろ）にも、疑義があれば2営業日以内に申し出るよう記載されていたり、口座開設時に確認を求められたりする事前交付書面（主に約款）では後ろの方に「免責事項」として、業者の責任逃れの条文があると思います。

しかし、これらは勝手に業者が宣言しているだけで、たとえ承諾して口座開設をしても(承諾しな

いと口座開設できませんけど)、顧客が問い合わせれば、相応の対応をしてくれるはずですよ。

実は 2013 年夏に、スリッページに関して、登録業者に対して、スリッページに関してガイドラインが提示されました。

ガイドラインが提示されたということは、ガイドラインではなく、こうしろよ！というお達しです。

具体的には業者のカバーが「顧客の指値より有利に付いたらその分も顧客に反映させなさい」というものです。

簡単な例でいえば、NY の金曜日にドル円が 98.50 円で終わり、顧客が 98.30 円の買い指値を出して、週明けに 98.20 円で始まった場合（要するに窓開けですね）、ブローカーは 98.30 円で顧客に成立させ、カバーは 98.20 円となり、10Pips 鞘が抜けてたわけです。

こうした行為はダメよということです。

これは窓開けだけでなく、急激に動いたとき、システムエラー発生時にも適用されます。

同様に STOP オーダーも、実際のカバーより不利な値段で顧客に約定させちゃダメってことです。

ということは、われわれ投資家は一層、スベリについて厳格にブローカーに物申すことができるようになったのです。

問い合わせをしてもちゃんと調査なり、対応をしてくれない、どうしても納得いかないというのであれば、当局への連絡を匂わせても構いません。

業者は、顧客から当局へのチクリを一番恐れているからです。

もし、業者が申し出を認めて、補てん（差金調整≒値合金）してもらえるなら、それは喜んで受けるべきです。その際のやり取りはメールなり、電話の録音をしっかりと残し（ほとんどの業者は録音を残しています）、毅然たる態度で臨むべきです。

当局も投資家保護を厳しく業者に指導しており、ほとんどの場合、免責事項に効力はありません。

ただし、自然災害や明らかに投資家自身の問題に起因するものは、相手にされませんので、ご注意を。

※なお、自動売買か裁量取引かを問わず、MT4 を利用しようとする方は、別途 MT4 に関する記述にて注意事項を記載しますので、ご確認ください。

ゼニ失い5 業者の弱点を知らない

われわれ市場参加者は、マーケットで戦うわけですが、その戦場を提供する業者にも弱点があります。

前述のように当局です。

業者には、証券取引等監視委員会が、最低6年に1回は検査に来ます。そのほとんどは臨店検査で、予告なくいきなりやってきます。

その基準となるのは、月に一度、当局へ報告が義務付けられているのは「モニタリング報告」です。これには、財務状況、売買高など様々なデータです。これを基にこの業者はそろそろ検査に行こうと判断されるのです。

検査はなにをするかというと、ある日突然、来社し、警察官のような手帳というか身分証明書を提示し、「はい、動かないでください」と言われます（社長以外とは名刺すら貰えません）。まずは社長以下取締役、届け出てしている主たる役職員のPCのハードディスクを丸ごとコピーし、さらには個人的な手帳まで提出させられることもあります。

いろいろチェックし、顧客からのクレームがなければ、財務状況のチェックがメインで、自己資本比率の計算にインチキがないか、顧客の資産が正しく信託保全されているか、怪しい資金の動きはないかなどが、書面ならびにヒアリングにて行われます。

また、顧客カードや取引データなども適当に見繕って、チェックしていきます。

仮に顧客のからのクレームがあった場合には、その内容・対応履歴・内容次第で当局への報告提出の有無などがチェックされます。もしここで不備があれば、とことん追求してきます。

業者としては、やましいことがなくても、心臓バクバクもので生きた心地がしないというのが、本音です。

ただ、特に不備がなくても、意気込んで検査にやってくるのですから、なんらかのお土産を持たせてあげないといけません。まったく、問題がない業者だったと検査結果を上を報告したら、職務怠慢とかいじめられるのです。彼らも所詮宮使いですから。

よくあるお土産は、解約客の本人確認書として提出した自動車免許の本籍地（現在は本籍地は記載されていない）を塗りつぶしていないとか、健康保険証に申し込み者以外の氏名や年齢が記載されており、塗りつぶしていないとか、比較的軽微なエラー（不備事項）を発見させてあげるのです。

検査期間は、会社の規模にもよりますが、10日から場合によっては数か月です。

その最終日には、検査会場（普通業者の会議室）で講評というのがあり、おおまかな検査結果が伝えられます。正式には証券取引等監視委員会が、管轄財務局に検査結果を報告し（状況により処分の勧告）、そして、1か月後に代表取締役が財務局に呼ばれて、正式な検査結果が書面で申し渡されます。レベルとしては、「業務改善命令」、「業務停止命令」、「登録取り消し」の順に厳しいものとなり、「登録取り消し」は文字通り「The End」です。

「業務改善命令」、「業務停止命令」には、それぞれ期限を設けられ、指摘事項の改善の実施、状況などの報告が義務付けられています。それでも当局がダメと判断した場合には、最後はやはり「登録取り消し」となります。

最近の具体例としては、2012年12月にイニシアスター証券が顧客資産を区分管理せず、運転資金等に流用しているなど公益及び投資者保護上著しく不当な行為が発覚し、さらに純財産額及び自己資本規制比率が法定の基準を下回っている状況が続き、それらの虚偽報告から登録取り消しとなりました。

また業務改善命令の例としては、2012年10月にGMOクリック証券がシステムリスク管理体制の不備に対して改善命令が出されています。

2011年3月11日の東日本大震災以降、いままでのコンティンジェンシープランでは災害時の対応が手ぬるいという傾向にあり、未曾有の災害への対策を求めるに至っています。

当局の検査ほど厳しくはありませんが、金融先物取引業を行う金融商品取引業者及び登録金融機関の唯一の自主規制団体である一般社団法人 金融先物取引業協会(以下、金先協会)から、事前予告のある監査というものがあります。

これは●月×日に監査に行きます。それまでにこれらの資料を用意しておくように、または事前に提出するよという形式となっています。

金先協会は、ある意味当局の下請けであり、業者の見方でもあります。

一通り提出書類に目を通し、ここはこのように直しなさいとか、指摘してくれます。

要は、当局はそんなものまで検査したくないから、金先協会に事前にチェックさせているわけです。

ただ、協会からの監査人は、金融庁や関財からの天下りや出世レースから外れた方もおり、勘違い野郎もいます。特に出世レースから外れた方は、偉そうで鼻持ちならない人物も居たりします。

それでも業者は、ある意味味方ですから、黙って言いなりになるしかないのです。

余談ですが、金融庁検査では、2013年の大ヒットドラマで見られたような感情的に書類をぶちま

けて、高飛車な態度をとるようなおねえ検査官にはあったことはありません。

むしろ検査のプロでもあるにも拘わらず、知っていることをわからない振りをして、業者サイドがちゃんと説明できるかを確かめるという陰湿なスタンスをとるのが一般的です

このように業者の弱点は、財務局であり、その源となるのはわれわれ投資家のトレードなのです。

前章の繰り返しになりますが、業者は実に様々な弱点を抱えているもろいものなのです。

自分に非がなければ、正々堂々と問い合わせをすべきです。

ゼニ失い30 MT4はFX業者に丸見えである事実を知らない

業者には、顧客のトレードを法定帳簿の作成や適合性の原則に照らし合わせ、過剰なトレード、異常なトレードをしていないか、チェックする必要、義務があります。

MT4の場合、業者には MetaManager というツールがあり、これは、誰がログインしているか、残高はいくらか、ポジションはどうか、どのようなオーダーを出しているか、いつどのようなインディケータを表示させたか、接続 IP はなにかなどの細かいログまでも把握できる仕組みになっています。

特に EA による自動売買の場合、多くはその EA 名（EA のファイル名ではなく、MQ4 ファイルに記述されているもの）も備考欄に表示されます。別にそれ自体問題はないのですが、同じ EA が多く稼働している場合、業者はその指値の手前で同方向に仕掛ければ、あとは EA が相場をいい方向に動かしてくれ、わずかな手間ですぐに自己売買により利益を得ることも可能です。

これは顧客にとってもともとエントリーしようとしたレートで成立すれば、特に問題はありません。ただ、ロスカットオーダーの場合、俗に言われているように狙ってつけるということも可能です。最近の EA は優れたもの（パフォーマンスがいいというわけではなく）もあり、とりあえずダミーの指値を発注しておき、本当の指値に達したら、成行で発注するものまで出てきています。

MT4 のユーザーはすべて、丸裸にされているということだけは知っておくべきでしょう。

鼻血ブーの条項開示サービスは以上となります（笑）

あなたが「ゼニ失いトレーダー25 箇条」を読んでも読まずとも、**本当の意味での「FX の常識」**を身につけ、トレードで大きな成果が出ることを心よりお祈りしています。

頑張ってください!!